

第8学年1組 美術科学習指導案

日 時 令和6年2月22日(木) 3校時
 学 校 名 島根大学教育学部附属義務教育学校
 指 導 者 江角 哲弥

1 題材名

藍染で島根の魅力をアピール！～観光客に向けた藍染ハンカチをつくろう～
 A表現(1)イ(ア) (2)ア(ア)(イ) B鑑賞(1)ア(イ)イ(イ) [共通事項] (1)ア, イ

2 題材の目標

- (1)・藍の濃淡や模様の違いなどが感情にもたらす効果や構成の美しさ、絞染や型染の技法、造形的な特徴などをもとに、染め物のよさや美しさなどを全体のイメージで捉えることを理解することができる。 (知識及び技能)
- ・絞染による藍の濃淡や模様、型染の技法をいかし、島根の魅力を伝えることを意識して自分の表現方法を追求し、制作の順序などを総合的に考えながら、見通しをもって創造的に表すことができる。 (知識及び技能)
- (2)・構成や装飾の目的や条件などを基に、用いる場面や環境、社会との関わりなどから、島根の魅力を伝えることをイメージして主題を生み出し、絞染による藍の濃淡や模様の違い、型染の技法の効果、リズムやリピテーションなどの構成美の要素から美的感覚を働かせて調和のとれた洗練された美しさなどを総合的に考え、表現の構想を練ることができる。 (思考力、判断力、表現力等)
- ・目的や機能との調和のとれた洗練された美しさや、絞染や型染の表現の特徴などから伝統文化のよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫、美術文化の魅力や継承と創造について考えるなどして、見方や感じ方を深めることができる。 (思考力、判断力、表現力等)
- (3)・美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に藍の濃淡や模様、染色の技法の効果などから島根の魅力を伝えることを意識して表現の構想を練って創造的に表したり、目的や機能との調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取って作者の心情や表現の意図と創造的な工夫、美術文化の魅力や継承と創造について考えたりするなどの見方や感じ方を深める表現や鑑賞の学習活動に取り組むことができる。 (学びに向かう力、人間性等)

3 題材の評価規準

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	<p>知 藍の濃淡や模様の違いなどが感情にもたらす効果や構成の美しさ、絞染や型染の技法、造形的な特徴などをもとに、染め物のよさや美しさなどを全体のイメージで捉えることを理解している。</p> <p>技 絞染による藍の濃淡や模様、型染の技法をいかし、島根の魅力を伝えることを意識して自分の表現方法を追求し、制作の順序などを総合的に考えながら、見通しをもって創造的に表している。</p>	<p>発 構成や装飾の目的や条件などを基に、用いる場面や環境、社会との関わりなどから、島根の魅力を伝えることをイメージして主題を生み出し、絞染による藍の濃淡や模様の違い、型染の技法の効果、リズムやリピテーションなどの構成美の要素から美的感覚を働かせて調和のとれた洗練された美しさなどを総合的に考え、表現の構想を練っている。</p> <p>鑑 目的や機能との調和のとれた洗練された美しさや、絞染や型染の表現の特徴などから伝統文化のよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造</p>	<p>態表 美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に藍の濃淡や模様、染色の技法の効果から島根の魅力を伝えることを意識して表現の構想を練ったり、意図に応じて自分の表現方法を追求して見通しをもって創造的に表したりする表現の学習活動に取り組もうとしている。</p> <p>態鑑 美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に目的や機能との調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫、美術文化の魅力や継承と創造について考えるなどの見方や感じ方を深め</p>

		的な工夫、美術文化の魅力や継承と創造について考えるなどして、見方や感じ方を深めている。	る鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
--	--	---	----------------------

4 基盤

(1) 題材観

本題材では、構成や装飾の目的や条件などを基に、用いる場面や環境、社会との関わりなどから、調和のとれた洗練された美しさを考えて作品を制作する。具体的には、観光客に向けた島根の魅力を伝える藍染ハンカチを、絞染や型染の技法を用いて制作する。その活動を通して、伝統文化のよさや美しさを感じ取り愛情を深めるとともに、美術文化の魅力や継承と創造について考えるなどして、見方や感じ方を深めることをねらいとする。

藍染は、日本では奈良時代ごろに中国から朝鮮半島を経て伝えられたと言われており、今日まで受け継がれてきた伝統文化である。現在も、着物や浴衣、ハンカチなど様々な布製品が藍で染められ、日常的に使用されている。島根県では、安来市広瀬町に藍染紺屋があり、伝統文化として引き継がれている。藍染の魅力は、染める回数によって変わる藍の濃淡の美しさや使用する回数を重ねるごとに藍が馴染み、より深い味わいのあるものになることである。また、絞染の模様につけ方も様々であり、偶然性による模様の美しさを味わうことができる。本題材ではハンカチサイズの布を使用して作品を制作する。ハンカチは、染め物の素材に適しており、日常的に使用することやたくさんの人の目に触れる機会が多い。サイズ感も程よく、絞染による藍の濃淡や模様をいかした型染のデザインを考える上で、非常に構成しやすい素材である。

生徒たちは、学校生活の中で日本の伝統文化や伝統芸能に触れる機会が少なく、そのよさや魅力を肌で感じ取ることができていない現状がある。本題材では、藍染ハンカチを制作することを通して、日本の伝統文化のよさや美しさを感じ取ることができる。加えて、観光客に向けて島根の魅力を伝えるハンカチのデザインを考えることで、他者や社会との関わりを意識して調和のとれた洗練された美しさなどを考えてデザインすることの楽しさやおもしろさを体感してほしい。また、絞染や型染の染色技法を体験することによって、藍の濃淡の美しさや魅力、職人の思いや技術のすばらしさを体験的に理解することができる。これらのことから、藍の濃淡や模様の違いなどが感情にもたらす効果や構成の美しさなどから調和のとれた洗練された美しさを総合的に考えて表現の構想を練る力を身につけたり、作者の心情や表現の意図と工夫、日本の伝統文化のよさや美しさを感じ取って美術文化の魅力や継承と創造について考えることで見方や感じ方を深めたりすることが期待できる題材である。

(2) 生徒観

本学級の生徒は、2学期にピクトグラムを制作したことから、より多くの人に情報をわかりやすく伝えることができる伝達デザインの働きについて考える学習をしており、伝達の効果と美しさとの調和を総合的に考えて表現する力を身につけている。自画像制作では、表情やポーズ、背景、構図、色彩などが感情にもたらす効果などを基に主題を考え、絵の具や材料の特性をいかして意図に応じて自分の表現方法を追求して創造的に表すことができていた。また、抽象彫刻作品の制作では、自分の心を、オノマトペを基にして主題として考え、粘土の可塑性をいかして動勢や量感、バランスなどを意識しながら表現する力を身につけることができていた。このような活動を通して、より多くの人に情報をわかりやすく伝えるために形や色彩を工夫して表現する力や、夢、想像や感情などの自分の心の世界を基に主題を生み出し、材料や用具の特性をいかにしながら自分の表現方法を追求して見通しをもって創造的に表す力が備わっている。しかし一方で、日本の伝統文化を基にした作品に対する作者の心情や意図、創造的な工夫について考え、そのよさや美しさを感じ取って愛情を深めることができていない。また、なぜその伝統文化が今まで大切にされてきたのか、それを継承して新たな価値や文化を積極的に創造していこうという美術文化の魅力や継承と創造について考えて見方や感じ方を深める学習を十分に行うことができていない。

生徒に対して行った事前アンケートでは、日本の美術文化や伝統文化、伝統工芸について興味や関心が「ある」と答えた生徒が 59.8%であったのに対し、「ない」と答えた生徒は 24.1%、「どちらでもない」と答えた生徒は 16.1%であった。また、日本の美術文化や伝統文化、伝統工芸をみたり体験したりしたことが「ある」と答えた生徒は 69.6%、「ない」と答えた生徒は 30.4%であった。このアンケート結果から、日本の美術文化や伝統文化、伝統工芸に興味や関心がなかったり、それをみたり体験したりする機会がない生徒が少なからずいることがわかる。

そのため、中学校学習指導要領（美術編）に「日本の美術作品や受け継がれてきた表現の特質などから、伝統や文化のよさや美しさを感じ取り愛情を深めるとともに、諸外国の美術や文化との相違点や共通点に気付き、美術を通じた国際理解や美術文化の継承と創造について考えるなどして、見方や感じ方

を深めること。」とあるように、日本の美術文化の一つである染色の技法を用いた作品を制作することを通して、そのよさや美しさ、職人の思いを感じ取り、美術文化を受け継ぐことの大切や意義を考えることで、見方や感じ方を深められるようにしたい。また、観光客に島根の魅力を伝えるハンカチという、他者や社会との関わりを意識して調和のとれた洗練された美しさなどを考えてデザインすることの楽しさやおもしろさを体感してほしい。

(3) 指導観

本題材ではまず、ストール、ハンカチ、Tシャツ、ジーンズなどの染め物の製品を鑑賞する。この活動を通して、形や色彩、材料の質感が感情にもたらす効果や模様構成の美しさを考えることによって、藍染という伝統文化のよさや魅力を感じ取ったり、興味や関心をもたせたりする。その後、観光客に島根の魅力を伝えることをテーマに、藍の濃淡や模様の違いなどが感情にもたらす効果や構成の美しさ、他者や社会との関わりなどから主題を生み出し、調和のとれた洗練された美しさなどを総合的に考えて構想を練り、絞染や型染の技法をいかして藍染ハンカチを制作する。そして、題材の最後には作品の相互鑑賞を行い、お互いの作品の造形的なよさや美しさを感じ取ったり、表現の意図や創造的な工夫について考えたりして、見方や感じ方を深める。また、日本の美術文化のよさや美しさを感じ取って愛情を深めるとともに、その美術文化を継承し、新たな価値や文化を積極的に創造していこうとする気持ちをもてるように授業を展開する。

第1次【藍染製品の鑑賞】では、ストール、ハンカチ、Tシャツ、ジーンズなどの染め物の製品を鑑賞し、形や色彩、材料の質感が感情にもたらす効果や構成の美しさを考える。この活動では、染め物の製品の調和のとれた洗練された美しさ、絞染や型染の表現の特徴などから伝統文化のよさや魅力を感じ取ったり、作者の表現の意図と工夫や美術文化の魅力や継承について考えたりすることを通して、見方や感じ方を深めることをねらいとする。まず、ストール、ハンカチ、Tシャツ、ジーンズなどの様々な染め物の製品を実際に触れ、形や色彩、材料の質感の違い、全体のイメージ、作風などの造形的な要素に着目して鑑賞する。ここでは、作者の表現の意図や造形的な工夫について考えたり、藍の濃淡や模様の違いによって感じる印象が変わることに気付いたりするような発問をする。また、日本の染め物の文化のよさや魅力を考えることを通して、見方や感じ方を深められるようにする。

第2次【絞染体験】では、安来市広瀬町にある藍染紺屋の藍染職人を講師として、絞染体験を行う。ここでは、絞染の回数による藍の濃さの変化や、結び方、絞り方によって様々な模様が生み出せることを理解することを大切にする。また、藍の深い味わいのある美しさや模様の変化による印象の違いなど、藍染の魅力を感じ取りながら取り組めるようにする。

第3次【型染のアイデアスケッチ】では、鑑賞の学習や絞染体験での学びをいかしながら、観光客に向けて島根の魅力を伝える目的を基に、他者や社会との関わりなどから主題を生み出し、調和のとれた洗練された美しさを考えながら型染のアイデアスケッチを行う。ここでは、絞染による藍の濃淡や偶然できた模様をいかし、それに合った島根の特色や観光名所、特産品などのひと・もの・ことを意識したモチーフを考えたり、構成美の要素による構成の美しさを意識したりすることを大切にしたい。まず、自分が絞染をしたハンカチの藍の濃淡や模様、折りたたんだ時にどのような見え方の変化があるのか分析する時間を設ける。そうすることで、藍の濃淡や模様に合わせて、どのようなモチーフを取り入れると絞染をいかしたデザインになるのかを考える手立てとなる。加えて、ハンカチを折りたたんだ時に見える模様やモチーフの配置をイメージすることにつながる。その後、島根の特色や観光名所、特産品などのひと・もの・ことからイメージするものを、ワークシートを使ってマッピングする。そして、絞染をしたハンカチをタブレット端末で撮影し、それを電子ホワイトボードツールに取り込み、白色のペン機能を使って型染のアイデアスケッチをする。ここでは、絞染でできた藍の濃淡や模様のよさ、モチーフの形の工夫、リズムやリピテーションなどの構成美の要素に触れ、絞染をいかしたアイデアとなるように指導する。また、白画用紙をモチーフの形に切り取り、それを絞染したハンカチの上で直接構成することができるようにし、生徒がタブレット端末と紙媒体でやりやすい方を選択して活動できるような環境を整える。ここでは、第4次で制作する型染のデザインシートで、モチーフの模様が抜け落ちてしまわないように、繋ぎ（吊り）をつくる指導を行う。本時【型染アイデア発表会】では、考えた型染のアイデアスケッチを班で相互鑑賞し、主題を基にお互いのアイデアスケッチのよさや工夫について発表し合ったり、さらに島根の魅力を伝えるためのアイデアの工夫をアドバイスし合ったりする場面である。ここでは、自分のアイデアを描き込んでいる電子ホワイトボードツールもしくは絞染をしたハンカチ上に白画用紙で切り抜いたモチーフを構成したもの（こちらを使用する場合は、写真を撮影して電子ホワイトボードツールに取り込む）を使用して発表し合い、その後改善点を提案し合う。この活動を通して、自分のアイデアに対して他者の視点を取り入れることができ、さらに藍の濃淡や模様をいかしたアイデアや、観光客に島根の魅力を伝えるためにモチーフの形や構成の工夫などを加えることにつながる。

第4次【型染】では、絞染をしたハンカチに、第3次で考えたアイデアを型染の技法を用いて抜染を

する。まず、第3次で考えたアイデアスケッチを基に、クリアファイルを使用して型染のデザインシートを制作する。ここでは、アイデアスケッチの相互鑑賞での改善点をいかしながら、主題を基にモチーフの形や構成の美しさなどを意識してよりよいデザインとなるようにする。その後、材料や用具、表現方法の特性を考え、使い方に十分に注意しながら、型染を行う。この活動を通して、素朴で温かみのある手づくりの作品のよさや魅力、職人の思いや技術のすばらしさなどを感じ取り、伝統文化に対する価値意識が育まれるような授業を展開する。

第5次では、作品の相互鑑賞と藍染のよさや魅力について再度考える活動の2時間構成で行う。1時間目【相互鑑賞】では、藍の濃淡や模様をいかして、モチーフや構成の美しさをどのように工夫したのかを発表し合ったり、作品の表現の意図や創造的な工夫について考えたりすることを通して、お互いの作品のよさや魅力について見方や感じ方を深める。2時間目【伝統文化のよさや魅力などについて考える】では、自分の作品について振り返り、他の染め物の製品と比較したり、藍染職人から藍染の歴史や藍の魅力について改めて話を聴いたりする。この活動を通して、藍染の特徴である藍の濃淡の美しさや模様の変化による印象の違いなどを感じ取り、伝統文化を継承することの意義や、新たな価値や文化を積極的に創造していこうとする気持ちをもつことができるように指導する。

5 指導と評価計画（全12時間）

●学習のねらい・学習活動	知・技	思・判・表	態度	評価方法・留意点等
<p>1. 鑑賞（1時間）</p> <p>●藍染や型染などの様々な染め物の鑑賞活動を通して、形や色彩、材料の質感などが感情にもたらす効果や構成の美しさなどから、日本の伝統文化である染め物についての理解を深めたり、その魅力やよさを全体のイメージで捉えたりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ストール、ハンカチ、藍染Tシャツ、ジーンズなどを鑑賞し、形や色彩、材料の質感などから感じたことや気付いたことなどを発表する。 ・伝統文化のよさや魅力について話し合い、発表する。 ・藍染の歴史や職人の技術のすばらしさについて理解する。 	<p>知</p> <p>↓</p>	<p>鑑</p> <p>↓</p>	<p>態鑑</p> <p>↓</p>	<p>知 形や色彩、材料の質感などが感情にもたらす効果や構成の美しさなど、全体のイメージで捉えることを理解しているかどうかを評価し、できていない生徒に対して染め物の色や模様の違いによってどんなことが感じられるかなどを考えさせる。【発言の内容、ワークシート、振り返り】</p> <p>鑑 染め物のよさや魅力、作者の心情や表現の意図、創造的な工夫などについて考えることができるかどうかを見取る。見方や感じ方が深まらない生徒に対して、形や色彩、材料の質感などが感情にもたらす効果や構成の美しさなどの〔共通事項〕の視点を示して鑑賞させるなどの手立てを講じる。【発言の内容、ワークシート】</p> <p>態鑑 染め物に興味や関心を持ち、形や色彩、材料の性質などが感情にもたらす効果を理解しようとしたり、調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取ろうとしたり、作者の意図や創造的な工夫について考えようとしているかを見取る。できていない生徒に対して、染め物の色の濃淡や模様、素材の質感による印象の違いに気付かせるなどの指導を行う。【活動の様子、ワークシート、振り返り】</p>

		鑑	<p>鑑 生徒が、染め物の調和のとれた洗練された美しさや伝統文化のよさや魅力などを感じ取り、作者の心情や表現の意図、創造的な工夫について考え、見方や感じ方を深められたかどうかを評価する。【活動の様子、発言内容、ワークシート、振り返り】</p> <p>態鑑 生徒が、主体的に染め物の形や色彩、材料の質感などが感情にもたらす効果などを全体のイメージや作風で捉えながら、見方や感じ方を深めようとしているかを評価する。【活動の様子、発言内容、ワークシート、振り返り】</p>
<p>2. 制作：絞染（2時間）</p> <p>●絞染の回数による藍の濃淡の変化やハンカチの結び方、絞り方によって様々な模様が生まれることを理解しながら、絞染する。</p> <p>▪ 藍の深い味わいのある美しさや模様の変化による印象の違いなど、藍染の魅力や職人の技術のすばらしさなどを感じ取りながら取り組む。</p>		態表	<p>態表 自分の表現方法を追求して、見通しをもって創造的に表そうとする態度を見取り、主体的に活動できていない生徒に対して、絞染の回数による色彩の変化や模様の違いなどを示し、意欲を高めさせる。【振り返り、活動の様子】</p> <p>態表 生徒が、主体的に自分の表現方法を追求し見通しをもって表現の学習活動に取り組もうとする態度を評価する。【振り返り、活動の様子】</p>
<p>3. 発想や構想（3時間）</p> <p>●主題を生み出す。</p> <p>▪ 鑑賞の学習で学んだことや、絞染での藍の濃淡や模様をいかしながら、島根県の魅力を伝えることをイメージして主題を生み出す。</p>	発	態表	<p>発 構成や装飾の目的や条件などを基に、用いる場面や環境、他者や社会との関わりなどから、絞染での藍の濃淡や模様をいかして島根の魅力を伝えることをイメージして主題を生み出せているかどうかを見取る。主題が生み出せない生徒に対して、絞染でできた藍の濃淡や模様を再度鑑賞させ、それをいかせるような島根のモチーフを考えさせたり、調べさせたりしてイメージを深める手立てを講じる。【ワークシート、アイデアスケッチ】</p>

● 構想を練る。

- ・ 創出した主題を基に、絞染での藍の濃淡や模様、型染の効果、構成美の要素などから調和のとれた洗練された美しさなどを総合的に考え、表現の構想を練る。

● よりよいアイデアを考える。(本時)

- ・ 型染のアイデアスケッチを相互鑑賞し、アドバイスし合うことで他者の視点を取り入れて、さらに島根の魅力が伝わるアイデアになるように、モチーフの形や構成などを工夫する。

態表 主題を生み出そうとする態度を見取り、主体的に活動できていない生徒に対して、絞染での藍の濃淡や模様を見直し、それをいかした島根県の特徴的なものなどの具体的な内容を考えさせるなどの指導を行う。
【ワークシート、アイデアスケッチ、活動の様子】

発 主題を基に、藍の濃淡や模様が感情にもたらず効果や構成美の要素による構成の美しさなどから調和のとれた洗練された美しさなどを総合的に考えて表現の構想を練っているのかどうかを見取る。構想が練れていない生徒に対して、再度主題を確認させたり、伝える島根の魅力についての形や構成の工夫など、〔共通事項〕に基づいて考えさせたりする。【ワークシート、アイデアスケッチ】

態表 主体的に構想を練ろうとしているかを見取り、できていない生徒に対して、鑑賞の学習での染め物のよさや魅力、創造的な工夫について、藍の濃淡や模様、構成の美しさなどの視点から再度考えさせる。【ワークシート、アイデアスケッチ、振り返り、活動の様子】

発 お互いのアイデアスケッチを相互鑑賞し、モチーフの形と構成の工夫などを伝え合い、さらに島根の魅力が伝わるデザインにするためにはどうすればよいのか考え直し、モチーフの形や構成などを工夫しているのかどうかを見取る。できていない生徒に対して、絞染でできた藍の濃淡や模様の特徴、モチーフの配置について再度考えるなどの視点を示して修正させる手立てを講じる。【ワークシート、アイデアスケッチ、振り返り】

				<p>発 生徒が、構成や装飾などの目的や条件など基に、用いる場面や環境、他者や社会との関わりなどから島根の魅力を伝えることをイメージして主題を生み出し、藍の濃淡や模様などが感情にもたらす効果や構成美の要素による構成の美しさなどの調和のとれた洗練された美しさなどを総合的に考えて表現の構想を練っているかどうかを暫定的に評価し、授業外で、主題や構想の工夫などを記述したワークシート等を完成作品と併せて再度見取り必要に応じて修正する。また、アイデアスケッチの相互鑑賞を通して、さらに島根の魅力が伝わるアイデアにするにはどうすればよいのかを考え直し、モチーフの形や構成などを工夫しているかを見取り評価する。【ワークシート、アイデアスケッチ、振り返り】</p> <p>態表 生徒が、主体的に知識を活用しながら、発想や構想の学習に取り組もうとする態度を評価する。【ワークシート、アイデアスケッチ、活動の様子】</p>
<p>4. 制作：型染（4時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●アイデアスケッチで発想や構想したことを基に、意図に応じて表現方法を工夫して、制作の順序などを考えながら見通しをもって創造的に表す。 ・型染の技法の特徴を理解し、藍の濃淡や模様などが感情にもたらす効果や構成の美しさなどをいかしながら、型染のデザインシートを制作する。 ・型染の技法を理解し、創意工夫して作品を完成させる。 	<p>技</p> <p>↓</p>	<p>発</p> <p>↓</p>	<p>態表</p> <p>↓</p>	<p>技 藍の濃淡や模様などが感情にもたらす効果や構成の美しさ、調和のとれた洗練された美しさなどを考え、意図に応じて表現方法を追求して、制作の順序などを総合的に考えながら表しているかどうかを見取る。できていない生徒に対して、再度、伝える島根の魅力やアイデアスケッチを確認させたり、他の生徒の作品を紹介したりして表現の工夫を考えさせたりするなどの指導を行う。【制作途中の作品】</p> <p>発 この段階で発想がまとまっていない生徒に対して、藍の濃淡や模様をどういかにせるのかということや伝える島根の魅力についてもう一度考えさせたり、モチーフの形や構成の美しさなどについて他の生徒の作品を鑑賞しながら考えさせたりするなどの手立てを講じる。【制作途中の作品】</p>

	知・技		<p>態表 主体的に表現方法を追求しようとしたり、見通しをもって表そうとしている態度を見取る。できていない生徒に対して、形や構成美の要素の効果による印象の違いに気付かせながら、表現の工夫について意欲を高めるような指導を行う。 【制作途中の作品、活動の様子】</p> <p>知・技 作品から、意図に応じて表現方法を創意工夫して表しているかなどを見取るとともに、藍の濃淡や模様などが感情にもたらす効果や構成の美しさなどを全体のイメージや作風で捉えることを理解していることを併せて見取り、知と技を知・技として一体的に評価する。【作品、アイデアスケッチ、ワークシート】</p> <p>態表 生徒が、主体的に制作に取り組み、藍の濃淡や模様などが感情にもたらす効果や構成の美しさなどを全体のイメージや作風で捉えることを理解しようとし、見通しをもって意図に応じて表現方法を工夫して表そうとしている態度を評価する。【作品、活動の様子】</p>
<p>5. 鑑賞（2時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●生徒作品を相互鑑賞し、お互いの作品のよさや美しさを感じ取り、見方や感じ方を深める。 ・お互いの完成した作品を鑑賞し、島根の魅力を伝えるために藍の濃淡や模様、モチーフ、構成の美しさなどをどのように工夫したのか発表し合ったり、作者の表現の意図や創造的な工夫を考えたりするなどして、お互いの作品のよさや美しさについて、見方や感じ方を深める。 ●伝統文化のよさや美しさを感じたことを実感し、美術文化の継承と創造について考えるなどして見方や感じ方を深める。 ・自分の作品を振り返り、他の染め物の製品と比較したり、藍染職人から藍染の歴史や藍の魅力について改めて話を聴いたりすることを通して、伝統文化を継承することの意義などについて考える。 	知	鑑	<p>知 藍の濃淡や模様の効果やモチーフの形や構成の美しさを、全体のイメージや作風で捉えることを理解しているかどうかを見取る。できていない生徒に対して、鑑賞の学習での藍染作品を例に示すなどの手立てを講じる。【ワークシート、発言の内容】</p> <p>態鑑 自分の作品のよさや美しさを説明したり、他の生徒の作品の表現の意図や工夫などについて考えたり、美術文化の継承と創造について考えたりしているかどうかを見取る。できていない生徒に対して、作品の主題や構想を振り返らせたり、藍の濃淡や模様などが感情にもたらす効果や構成の美しさの視点で鑑賞させたり、藍の魅力について再度考えさせたりするなどの指導を行う。【ワークシート、発言の内容】</p>

			<p>態鑑 主体的に作品の造形的なよさや美しさを感じ取ったり、考えたりしているかどうかを見取る。できていない生徒に対して、藍の濃淡や模様などが感情にもたらず効果や構成の美しさ、調和のとれた洗練された美しさなどの視点で鑑賞させるなどの手立てを講じる。【電子ホワイトボードツール、ワークシート、発言の内容、活動の様子】</p> <p>態鑑 生徒が主体的に作品を鑑賞し、藍の濃淡や模様などの効果やモチーフの形や構成の美しさなどを全体のイメージや作風で捉えることを理解しようとし、造形的なよさや美しさを感じ取ろうとしたり、他の生徒の作品の表現の意図や工夫などについて考えようとしたり、伝統文化の継承や想像について考えたりしているかどうかを評価する。【電子ホワイトボードツール、ワークシート、発言の内容、活動の様子】</p>
<p><授業外：題材が終了後></p>	<p>知・技</p>	<p>鑑</p> <p>発</p>	<p>知・技 完成作品や表現及び鑑賞のワークシートなどから知・技の評価を再確認し、必要に応じて修正する。【完成作品、アイデアスケッチ、ワークシート】</p> <p>鑑 作品の造形的なよさや美しさを感じ取り、創造的な工夫などについて考え、見方や感じ方が深められているかを電子ホワイトボードツールやワークシートで見取り評価する。【電子ホワイトボードツール、ワークシート】</p> <p>発 発想や構想について、主題や発想・構想の工夫、アイデアスケッチやその修正案などを記述したワークシート等を完成作品と併せて再度見取り、必要に応じて修正する。【完成作品、アイデアスケッチ、ワークシート】</p>

6 本時の学習（6／12時間）

（1）目標

- 型染のアイデアスケッチを相互鑑賞し、主題を基に、藍の濃淡や模様の効果をいかした、島根の魅力を伝えるモチーフや構成の美しさなどの工夫を伝え合ったりアドバイスし合ったりすることを通して、よりよいアイデアとなるように形や構成の工夫を考えることができる。
(思考力、判断力、表現力等)

（2）展開

主な学習場面と子どもの取組	めざす姿と取組を支える手立て
<p>1. 本時の学習の流れを確認する（1分）</p> <p>2. 前時の振り返りをする（2分）</p> <p>3. 自分のアイデアスケッチを振り返る（3分）</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分のアイデアスケッチを見て、表現主題や工夫を振り返り、相互鑑賞での発表内容を考える。 <p>4. 本時の学習目標を確認する（1分）</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の振り返りを紹介することで、本時の学習の意欲付けとなるようにする。 作品の主題や工夫などを具体的に発表できるように、藍の濃淡や模様をどういかしたのか、島根のどんな魅力を伝えたいのか、構成美の要素をどう工夫したのかなどと問いかける。 発表内容を提示し、それを選択して発表できるようにする。 発表内容をクラスルームにも示し、常に確認できるようにしておく。 <p>【発表内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ★観光客に島根のどんな魅力を伝えたいのか ★そのモチーフを選んだ理由 <ul style="list-style-type: none"> ①絞染での藍の濃淡と模様のいかし方 ②モチーフの形の工夫 ③構成美の要素の工夫 ④その他 ★マークは必ず発表し、それに加えて①～④の中から2～3つ選んで解説するように伝える。 <ul style="list-style-type: none"> 本時の学習目標を板書し、常に確認できるようにしておく。

絞染のよさ・モチーフの形・構成美の要素に注目して、より魅力的なアイデアを考えよう

<p>5. 班で一人一人がアイデアスケッチを発表し、改善点を直接伝えたり、電子ホワイトボードツールの付箋機能などを使用して入力したりする（25分）</p> <p>【発表の流れ】（一人5分）</p> <p>※3人班の場合、4人目の発表の時は他の班の発表を聴きに行く。</p> <p>①発表者がアイデアスケッチの解説をする（1分）</p> <p>②発表者に対してよりよいアイデアになるための改善点を提案する（4分）</p> <p><予想される生徒の反応></p> <ul style="list-style-type: none"> 絞染でグラデーションをしたので、藍の濃いところを地面に、淡いところを空に見立て、観光をテーマに出雲大社と松江城を形取ったデザインを考えた。複雑なので、もっと単純なものにしたい。 →藍の濃淡をいかしたデザインになっている。単純にしたのなら、出雲大社ならしめ縄、松江城なら天守閣な 	<ul style="list-style-type: none"> 自分のアイデアスケッチの思いが伝わるように、絞染のよさをどういかしたのか、観光客に島根のどんな魅力を伝えたいのか、モチーフの形や構成の工夫は何かなど、具体的に発表するよう促す。 藍染の濃淡や模様、シンメトリー、リピテーション、グラデーションなどの構成美の要素など、これまで意識してきたことをもとに発表できるように、キーワードを黒板に貼っておく。 <ul style="list-style-type: none"> 生徒が明確な視点をもって鑑賞できるように、視点を示す。 鑑賞の視点をクラスルームにも示し、常に確認できるようにしておく。 <p>【鑑賞の視点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ★島根の魅力が感じられるか（観光客に欲しいと思ってもらえるか）
--	---

ど、部分的なデザインにしてみてもどうか。

・絞染で藍の濃いところを多くしたので、そこにモチーフをたくさん構成するようにした。モチーフは、松江の和菓子の魅力を伝えたいので、和菓子にした。和菓子の種類をもっと増やして、華やかな感じにしたい。

→和菓子を数種類描き、それをリピテーションしてみると、リズムが生まれて魅力的なデザインになりそう。藍の濃いところに置くと、よりモチーフが引き立つと思う。

・絞染の模様が波のような感じになったことをいかし、島根にはおいしい食べ物がたくさんあるということを伝えるために、しじみやトビウオをモチーフにした。シンメトリーにして、シンプルなデザインとなるように工夫した。

→波の模様に沿うようにモチーフを構成するとよりよくなると思う。また、しじみをリピテーションになるように置いて、その中に1つだけトビウオを取り入れることによってアクセントの効果が得られ、さらに魅力的になりそう。

6. 改善点を基に、より絞染でできた藍の濃淡や模様をいかした、島根の魅力が伝わるデザインとなるように、モチーフの形や構成を工夫する (13分)

7. 本時の学習を振り返る (5分)
<予想される生徒の記述>

- ・同じようなモチーフでも、人によってデザインが異なっていておもしろかった。魅力を伝えるだけでなく、そのハンカチを使ってみたいくなるようなデザインにしたい。
- ・シンプルにデザインすることによって、相手に伝わりやすいのではないかと考えた。私のアイデアスケッチは少し複雑になっているところがあったので、そこをもっとシンプルにしていきたい。
- ・絞染でできた藍の濃淡や模様のよさをいかすことによって、より魅力的なデザインになるのではないかと感じた。絞染に合ったモチーフの形や構成を工夫したい。

★絞染のよさ（藍の濃淡や模様の効果）がいかされているか

★モチーフの形や構成（構成美の要素）の工夫

- ・班活動が活発になるように、絞染でできた藍の濃淡や模様をどのようにいかすとよいのか、観光客に島根の魅力が伝わるようにするにはモチーフの形をどう工夫するとよいのか、構成美の要素をどう使用するとよいのか、などの声かけをする。

- ・相互鑑賞でもらった改善点を基に、さらによりよいデザインとなるように自分のアイデアスケッチを深めるように促す。
- ・困っている生徒に対して、相互鑑賞の際にどんな改善点をもらったのか振り返らせたり、自分の作品の藍の濃淡や模様を再度確認させたりして、それをいかしたデザインがよりよいものとなるように支援する。
- ・相互鑑賞を通して感じたことや、今後の制作にいかしたいことなどを視点として振り返るように促す。

【評価の観点（思考・判断・表現）】

アイデアスケッチを相互鑑賞し、主題を基に、藍の濃淡や模様の効果をいかした、島根の魅力を伝えるモチーフや構成の美しさなどの工夫を伝え合ったりアドバイスし合ったりすることを通して、よりよいアイデアとなるように形や構成の工夫を考えている。（評価方法 活動の様子、アイデアスケッチ、振り返り）

(3) 評価

評価の観点	十分満足できると判断される状況	概ね満足できると判断される状況	支援を要する状況への手立て
思考・判断・表現	<p>概ね満足できると判断される状況に加えて、主題を基に、「たくさんものを描きすぎて絞染のよさがなくなってしまうので、モチーフを少なくしたり、単純にしたりして、藍の濃淡や模様をいかし、何を表しているのかひと目でわかるように改善したい」「藍の深い色合いの美しさがよりいかにされるように、モチーフを一つだけにしぼり、それをリピテーションしたり、グラデーションしたりすることによって、美しいデザインになるのではないか」など、絞染のよさ・モチーフの形・構成美の要素をより深く考え、表現の構想を練っている。</p>	<p>アイデアスケッチの相互鑑賞を通して、主題を基に、「絞染でできた藍の濃淡や模様をいかして、モチーフの構成をさらに工夫したい。モチーフをもっと簡単にして、シンプルなデザインにしたい。リピテーションを用いることで、華やかなものとなるようにしたい。」など、絞染のよさ・モチーフの形・構成美の要素を複合的に考え、より魅力的なアイデアとなるように表現の構想を練っている。 <small>(十分満足できる状況にするための手立て)</small> 島根の魅力を伝えることだけではなく、絞染のよさをいかしたり、デザインの美しさにも視点を向けさせたりして、さらに表現の構想が深まるようにする。</p>	<p>絞染でできた藍の濃淡や模様、自分が伝えたい島根の魅力をもう一度振り返らせたり、アイデアスケッチの相互鑑賞で得た改善点を再度確認させたりして、どんなモチーフを描くのか、構成をどう工夫するとよいのかなど、様々な視点でよりよいデザインとなるように声かけを行う。</p>